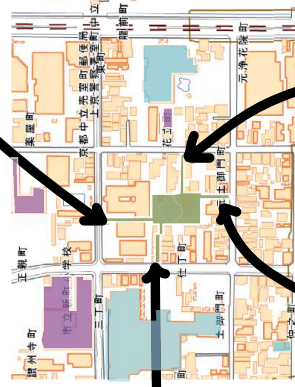


大きな話

敷地から導かれる「内と外」

実際にはないがアパートや
学校が立ち並ぶ北側に
住人を主に引き込むための
新たな入口を作る

…教育施設
…ホテル
…今回の敷地

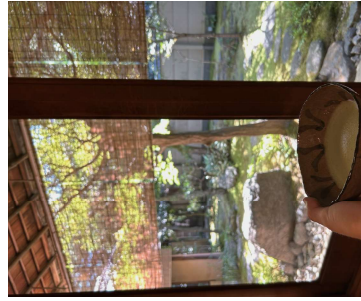


弘道館の敷地まで
細い道が長く
観光客ややや...

今現在の弘道館の入口

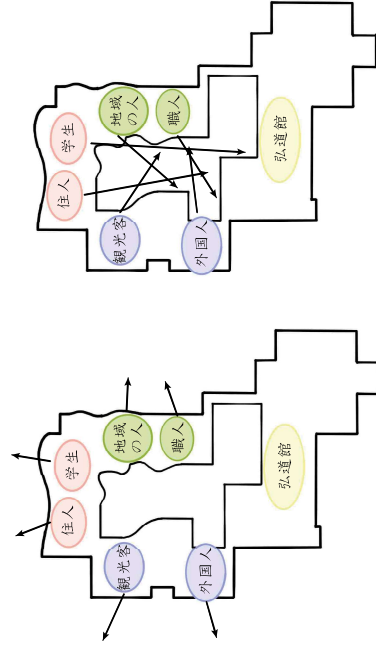
空き地を利用してここにも
入り口を作る
人通りが多い鳥丸通に近い

- ・観光客、住人、土着民が入り混じる土地である
- ・両側町制度の中で4つの町と交わる旗竿地である
→様々な人のアクセスが可能

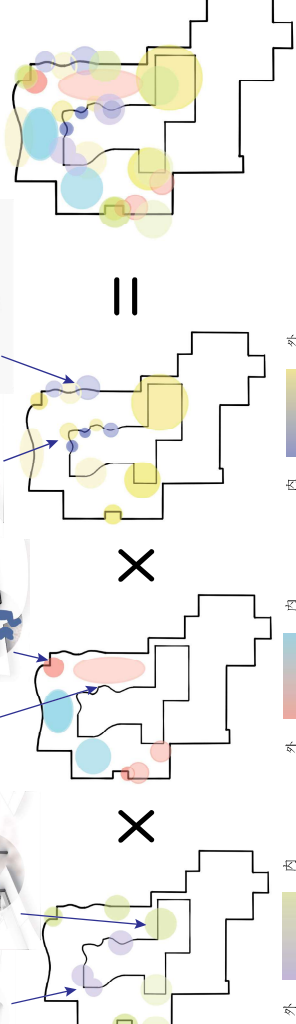
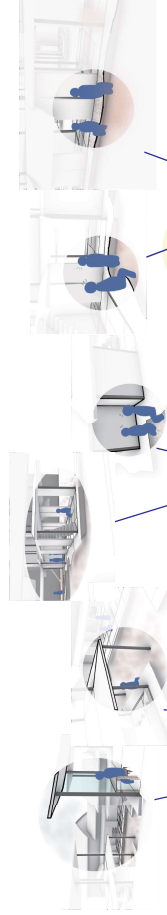


弘道館

- ・昔の学問所から発展して、
文化発信施設となっている
- ・数寄屋建築である
→内面を重んじるという特徴と
景色も建築の構成に取り込む
という特徴を持つ



- ・現在の弘道館に増築し、一つの輪をつくり、内と外を生み出す。
→外側を向いているときはそれぞれ個人の場としてふるまうが、
ひとたび内側を向くと、視線が通い、京都の様々な人、弘道館が関わるきっかけが生まれる。



- ・緑側、屋根、壁を用いて、さらに小さな内と外の空間を作り出す。

数寄屋建築の内面を重んじる姿勢

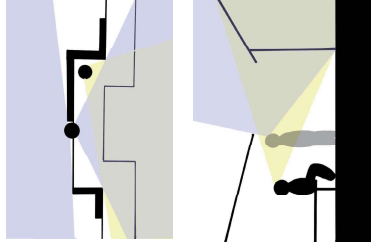
簡素な表現で外部の刺激を少なくした設計 — 京都の観光地化 — 多様な場をつくり、来た人の性格、気分に合わせて場所選びを可能にする設計

数寄屋建築の借景を用いる姿勢

遠くにある自然の景色を庭の景色と
ひと続きのものとして取り入れられる設計

内と外を用いて景色を切り取り、人々の活動が
良く見える場所、プライベートの守られる場所、
弘道館の活動のみに集中できる場所をつくる設計

小さな話 「内と外」を用いた 数寄屋の進化



平面図GL+1000
1/500

平面図GL+4000
1/500

図面・パース

